

平成30年(2018年)

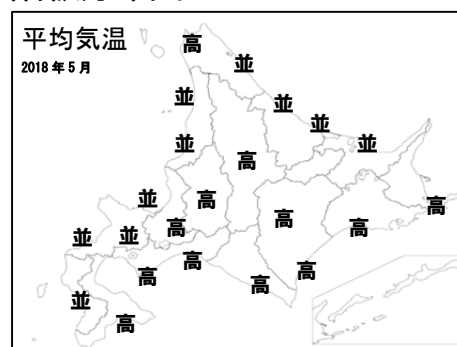
札幌管区気象台 気象防災部
地球環境・海洋課
(2018年6月1日)

北海道地方 5月の天候

気候表 (データは速報値であり、後日変更される場合があります)

官署名	本年			平年差・平年比		
	気温 ℃	降水量 mm	日照時間 h	気温 ℃	降水量 %	日照時間 %
稚内	9.5	102.0	170.7	+0.7	151	92
北見枝幸	9.2	105.0	151.7	+0.4	150	86
羽幌	11.0	61.0	184.6	+0.4	88	92
雄武	8.9	116.0	155.0	+0.3	201	87
留萌	11.1	73.0	200.0	+0.5	124	100
旭川	12.6	82.0	193.0	+0.8	127	98
網走	9.5	73.0	167.4	+0.1	119	89
小樽	12.1	66.5	190.2	+0.5	119	95
札幌	13.4	66.0	205.4	+1.0	124	104
岩見沢	12.6	59.5	210.5	+1.0	77	107
帯広	12.4	143.0	202.4	+1.3	177	105
釧路	9.5	82.0	179.5	+1.4	73	95
根室	8.5	73.5	179.3	+1.2	72	102
寿都	11.6	83.0	213.4	+0.6	121	111
室蘭	11.4	148.0	208.3	+1.2	146	107
苫小牧	10.7	101.0	181.9	+1.2	85	106
浦河	9.9	93.5	163.0	+0.6	77	86
江差	12.0	139.0	169.4	+0.2	142	96
函館	12.5	124.0	195.8	+0.6	148	101
倶知安	11.2	108.0	200.0	+0.5	144	106
紋別	9.3	107.5	162.3	-0.1	180	89
広尾	10.4	144.0	172.7	+1.1	89	98

階級分布図



注)「)」付きの値は欠測を含む。「)」付きの値は一定の割合以上の欠測を含む。

(気温は平年差(℃)、降水量・日照時間は比(%)を示す)

	気温	階級	降水量	階級	日照時間	階級
北海道22地点平均	+0.7	高	124	多	98	並
日本海側10地点平均	+0.6	並	122	多	100	並
ホツツ海側4地点平均	+0.2	並	163	か多	88	並
太平洋側8地点平均	+1.1	高	108	並	100	並

月統計値の記録 (第3位まで)

なし

階級は、概ね「高(多)」、「並」、「低(少)」の3段階に分けています。
各階級の幅は、平年値の作成期間(1981年~2010年の30年間)における各階級の出現率が1:1:1となるように決めてあります。
また、平年値作成期間内の上位、下位10%の範囲に入る場合は「か高(多)」、「か低(少)」(か→かなり)で表します。

— 『高温・多雨・並照』 上旬の低温・寡照が一転、下旬は高温・多照 —

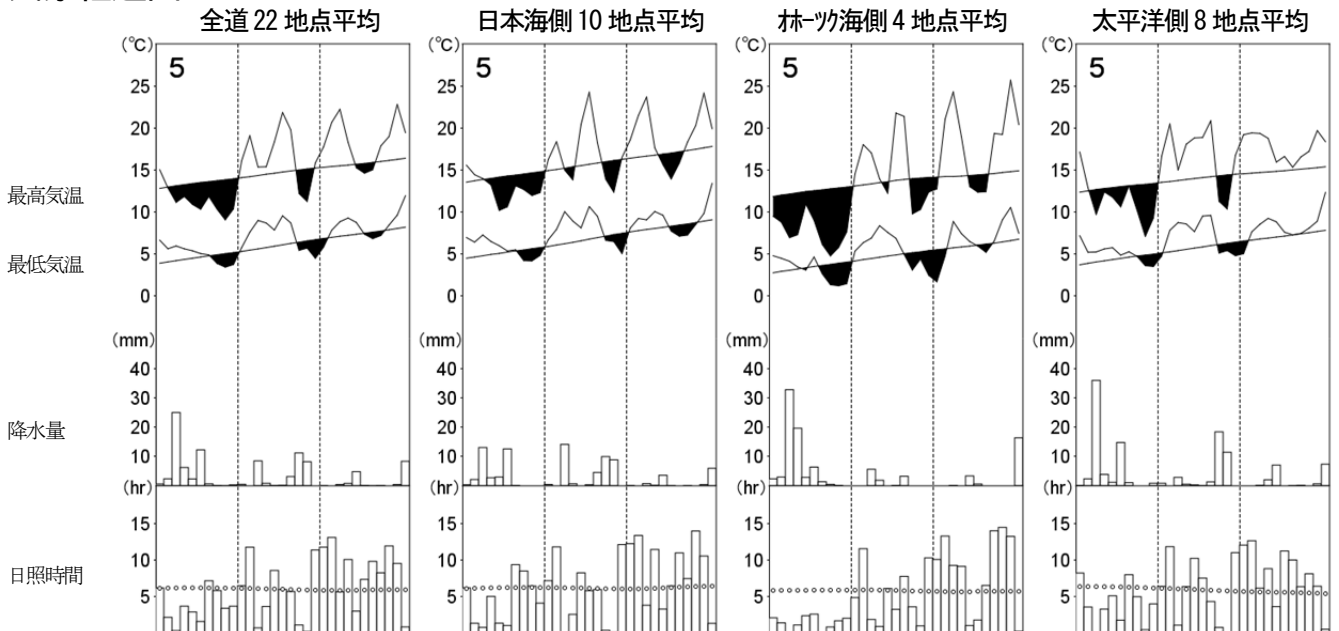
この期間の天気は、上旬は低気圧や気圧の谷の影響で雨の降った日が多く、中旬は短い周期で変わったが、下旬は高気圧の張り出しの中となって晴れた日が多かった。気温は上旬は平年より低かったが、中旬は高く、下旬はかなり高く、月平均気温も高かった。降水量は上旬と中旬は平年より多かったが、下旬は少なく、月降水量は多かった。日照時間は上旬は平年よりかなり少なかったが、下旬は多く、月間日照時間は平年並だった。なお、1961年の統計開始以降、上旬のオホーツク海側の降水量は最も多かった。

上旬:1日は寒冷前線の影響により日本海側やオホーツク海側で雨が降ったが、次第に高気圧の張り出しの中となって晴れた所が多かった。2日は高気圧の張り出しの中となって晴れた所があったが、気圧の谷の影響により次第に広い範囲で雨が降った。3日は前線を伴った低気圧の影響で全道的に雨が降った。日降水量は白老町森野で92.0mmなど。4~5日は低気圧や気圧の谷の影響により広い範囲で雨が降ったが、晴れた所もあった。6日は低気圧を含む気圧の谷の影響で全道的に雨が降った。7日は冷たく湿った気流や気圧の谷の影響でオホーツク海側や太平洋側東部を中心に雨が降ったが、次第に高気圧の張り出しの中となって日本海側や太平洋側で晴れた。8日は高気圧の張り出しの中となって晴れた所が多かったが、湿った気流の影響によりオホーツク海側などでは雨や雪の降った所もあった。9~10日は高気圧の張り出しの中となって晴れた所があったが、10日は低気圧の影響により太平洋側東部などで雨や雪の降った所もあった。

中旬:11日は気圧の谷の影響で雨の降った所があったが、次第に高気圧の張り出しの中となって広い範囲で晴れた。12日は高気圧の張り出しの中となって全道的に晴れた。13日は低気圧を含む気圧の谷が接近して広い範囲で雨が降った。14日は低気圧や気圧の谷の影響により広い範囲で雨が降ったが、次第に高気圧の張り出しの中となって太平洋側を中心に晴れた。15日は高気圧の張り出しの中となって概ね晴れた。16日は高気圧の張り出しの中となって晴れた所が多かったが、気圧の谷が接近して日本海側で雨の降った所もあった。17日は寒冷前線が通過して雨の降った所が多かったが、次第に高気圧の張り出しの中となって広い範囲で晴れた。18日は低気圧が接近して日本海側南部や太平洋側を中心に雨や雪が降った。日降水量は福島町千軒で85.5mmなど。19日は上空に寒気を伴った気圧の谷の影響で日本海側南部や太平洋側を中心に雨や雪が降った。20日は高気圧の張り出しの中となって全道的に晴れた。

下旬:21~22日は高気圧の張り出しの中となって全道的に晴れた。23日は高気圧の張り出しの中となって晴れた所が多かったが、次第に気圧の谷が接近して日本海側や太平洋側西部では雨の降った所があった。24日は気圧の尾根の中となって晴れた所が多かったが、大気の状態が不安定となって雨の降った所もあった。25日は低気圧を含む気圧の谷の影響で全道的に雨が降ったが、晴れた所もあった。26日は気圧の谷の影響で雨の降った所があったが、日本海側南部や太平洋側では高気圧の張り出しの中となって概ね晴れた。27~29日は高気圧の張り出しの中となって概ね晴れた。30日は、はじめ高気圧の張り出しの中となって概ね晴れたが、気圧の谷が接近して雨の降った所もあった。31日は気圧の谷の中で大気の状態が不安定となって全道的に雨が降った。日降水量は比布で62.0mmなど。

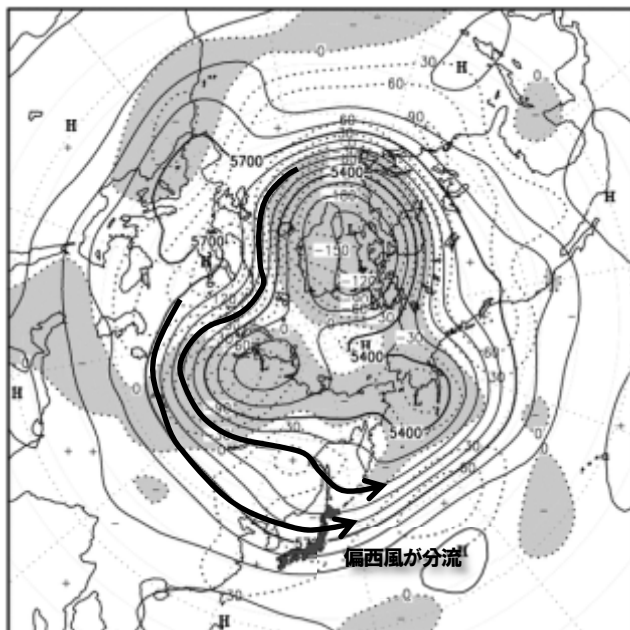
気象経過図



旬別気候表 (気温は平年差(°C)、降水量と日照時間は平年比(%))を示す)

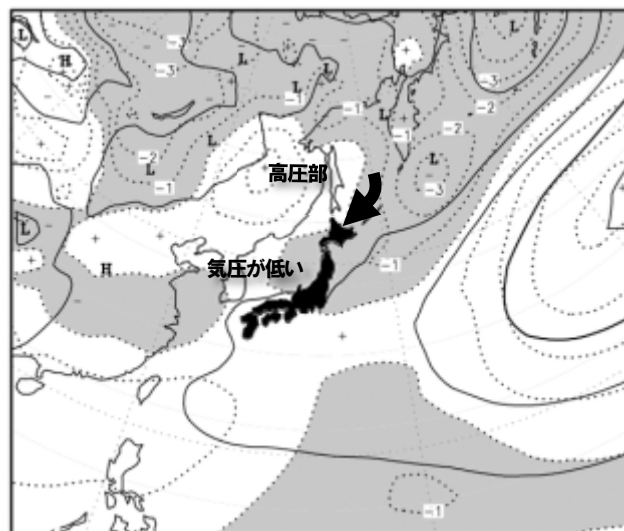
	北海道全域			日本海側			オホーツク海側			太平洋側		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
気温	-1.0 低	+1.3 高	+1.7 か高	-0.8 低	+1.1 高	+1.4 高	-2.5 低	+0.5 並	+2.3 高	-0.7 低	+1.9 高	+1.9 か高
降水	189 多	138 多	56 少	137 多	190 か多	48 少	368 か多	61 並	85 並	166 多	111 並	53 少
日照	60 か少	93 並	137 多	71 か少	89 並	135 多	25 か少	88 並	145 多	63 少	102 並	137 多

5月の大気の流れ（北半球の平均天気図の特徴）



5月の500hPa天気図

実線：等高線 (m)、点線：高度の年平均偏差 (m)
 陰影部は、平年より高度の低い負偏差の領域を示す。この領域では平年より気温が低い傾向がある。
 日本の上空では、風は等高線に沿って西から東に吹いている。等高線が南北に波打っている状態は偏西風が蛇行していることを、等高線の間隔が狭い所では偏西風が強いことを示す。



5月の地上天気図

実線：等圧線 (hPa)、点線：気圧の年平均偏差 (hPa)
 陰影部は、平年より気圧が低いことを示す。この領域では、平年より気圧の谷や低気圧の影響を受けやすい。

・500hPa（上空約5500m）天気図

北海道付近は東西に高度が高く、暖かい空気に覆われる時期があった。偏西風は極東で北と南に分流しオホーツク海付近が気圧の尾根、本州付近が気圧の谷となり、北海道付近は一時寒気が南下した。

・地上天気図

北海道付近は平年より気圧が低く低気圧が通りやすかった。オホーツク海付近は高圧部となり、一時的にオホーツク海高気圧の影響を受けた。

北海道上空の気温経過

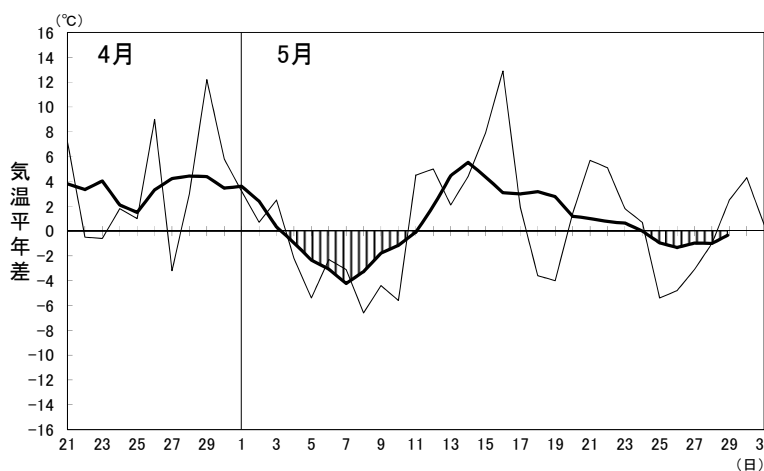
5月の札幌における850hPaの気温平年差

・7日移動平均（太線）

上旬の後半と下旬の後半は平年を下回る時期があった。

・日別値（細線）

上旬と下旬は平年を下回る日が多かった。中旬は平年を大きく上回る日が多かったが、平年を下回る日もあり寒暖の差が大きくなった。



4月下旬から5月の札幌における850hPa(上空約1500m)気温平年差

(細線：日別、太線：7日移動平均、陰影線：7日移動平均の負偏差)

お問い合わせ先

札幌管区気象台気象防災部 地球環境・海洋課

TEL (011)611-6174